

体験的な学習 小学校（第3学年）

取り上げた内容項目

個性の伸長

「個性の伸長」に関する児童の実態から

「自分にはよいところがある」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は70%程度であることから、自分のよさを理解し、それを伸ばしていこうとする態度につなげていきたい。

図画工作（4月）「色・形いい感じ！」

- ・自分の思いを絵の具で表現するとともに、作品のよさを紹介したり、友だちの作品のよさを見付けたりする。

国語（6月）「私とことりとすずと」

- ・詩を音読することを通して、私とことりとすず、それぞれに良いところがあることを感じとる。

○主題名：「自分のよさを生かす」A-（4）

○実施時期：8月

○教材名：「うれしく思えた日から」【「私たちの道徳」（小学校3・4年）P50～52】

○ねらい：自分のよさに気づき、自分のよいところを伸ばそうとする態度を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分のよさについて発表する。	○自分には、どんなよいところがありますか。 (予想される児童の発言) ・運動が得意なところ。 ・よいところが思いつかない。
	自分のよいところを伸ばしていくために大切なことについて考えよう。	
展開	2 「うれしく思えた日から」の範読を聞き、1年前の「ぼく」の気持ちについて考える。	○以前の「ぼく」は、自分のことをどのように思っていたでしょう。 (予想される児童の発言) ・自分には取り柄がない。 ・自分に自信がもてない。
	3 役割演技を通して、「いいかたをしているね」と言われたときの「ぼく」の気持ちを考える。	○先生や友達にほめられた時、僕はどんな気持ちになったでしょう。 (予想される児童の発言) ・みんなにほめられて、うれしい。 ・自分にも、いいところがあったんだ。
	4 1年前を振り返っている「ぼく」の気持ちを考える。	○「1年前のぼくじゃない」と言っている「ぼく」を変えた原因は何でしょう。 (予想される児童の発言) ・親や友達が認めてくれたこと。 ・友達の言葉を信じてがんばってきたこと。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆朝の会や学級活動などで事前に自分のよいところについて考えさせておき、短時間で効果的に導入を行うという工夫が考えられます。

◆本指導例では、実際に先生や友達から、ほめられる体験をすることで、ぼくの嬉しかった時の気持ちを感覚的に捉えさせることをねらっています。

◆自分のよいところに気づききっかけになったことが何かについて考えさせます。

段階	学習活動	主な発問等
展 開	5 自分のよいところを伸ばし、自信をつけた「ほく」の気持ちを考える。	
	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> ほくは、今の自分をどのように思っているでしょう。 </div>	
		(予想される児童の発言) ・先生や友達の励ましで自分に自信がもてた。 ・自分のよさが分かったから、苦しいときもがんばることができた。
	6 友達のよいところを見つけ、伝え合う。	○友達に、相手のよいところを伝え合いましょう。
	7、自分のよいところをさらに伸ばすためにできることを考える。	
<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分のよさを伸ばすためにできることを考えましょう。 </div>		
		(予想される児童の発言) 【よい所】 ・サッカーが上手だ。 ・困っている人に、やさしく声をかけている。 【できること】 ・毎日練習を続ける。 ・困っている人がいないか、周りの様子に注意する。
終 末	8 教師の説話を聞く。	○友人の助言で気付いた自分のよいところについて話す。

中心的な発問

◆友達と交流し、自分のよいところを聞くことを通して、自分では気付いていないよさを実感させます。

自己の生き方について考えさせる発問

◆自分のよさを伸ばすためにできることを考えさせることで、気付いたよさを伸ばそうとする態度を育てることをねらいます。

◆本時のねらいに関わり、自分のよいところに気づき、自己を高めようとした経験を話すなどして、実践への意欲化を図ります。

特別活動(9月) 「学芸会に向けて」
 ・楽しい学芸会をつくるために、練習への参加態度について、これまでの反省を生かし、学芸会の全体目標から自分に合っためあてを考える。

(授業づくりのポイント①)

体験的な活動を取り入れた学習についても、問題解決的な学習と同様に、この指導例を「型」として固定的に捉えることがないようにすることが大切です。

体験的な学習を行う場合、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要です。